

中央区文化・国際交流振興協会だより



空、海、森、美しい街並み、魅力あふれるビーチに集う
(オーストラリア サザランド市姉妹都市親善写真展)

● 特集 ●

八丁堀と与力・同心の組屋敷

文化講座講師 菅野俊輔 氏

- 第 29 回中央区国際交流のつどい
- 令和 4 年度の事業報告と決算
- 第 16 回中央区まるごとミュージアム 2023



Since 1991

八丁堀と与力・同心の組屋敷

菅野俊輔氏



令和5年10月に3回にわたり開催した文化講座「～時代小説、時代劇の中心地～江戸の暮らしと八丁堀に迫る」では、2回目に江戸文化研究家、早稲田大学エクステンションセンター講師である菅野俊輔氏を招き、「町人自治と大江戸警視庁<与力・同心>が守る庶民の暮らし～十手・捕縄が及ばぬ世界もあった～」と題して講演していただきました。大変好評でしたので、このたび講演に関連した内容について寄稿していただきました。

菅野 俊輔 (かんの しゅんすけ) 氏



江戸文化研究家、時代考証家、早稲田大学エクステンションセンター講師。
1948年、東京都生まれ。早稲田大学政治経済学部卒業。早稲田大学エクステンションセンター八丁堀校、毎日文化センター、読売・日本テレビ文化センター、朝日カルチャーセンター、小津文化教室で古文書解読講座の講師を務める。
主な著書に「大江戸暮らし大事典」(監修、宝島社)、「江戸の長者番付」(青春出版社、などがある。

大河ドラマの主人公徳川家康は、将軍となった慶長8(1603)年に、居城の地「江戸」に幕府を開いた。江戸城を中心とする武家地と幕府の御用をつとめる町人地の造成がはじまり、3代将軍家光のときまで続く「天下普請」により江戸は大会となった。

町人地は、外濠で囲まれた「惣構え」の内にあり、江戸城の東に位置する。北は外濠の神田川、東は隅田川、南は外濠の汐留川、西は常盤橋御門より幸橋御門にいたる外濠に囲まれている。神田のほかは、日本橋・京橋など、大半が現在の中央区内である。

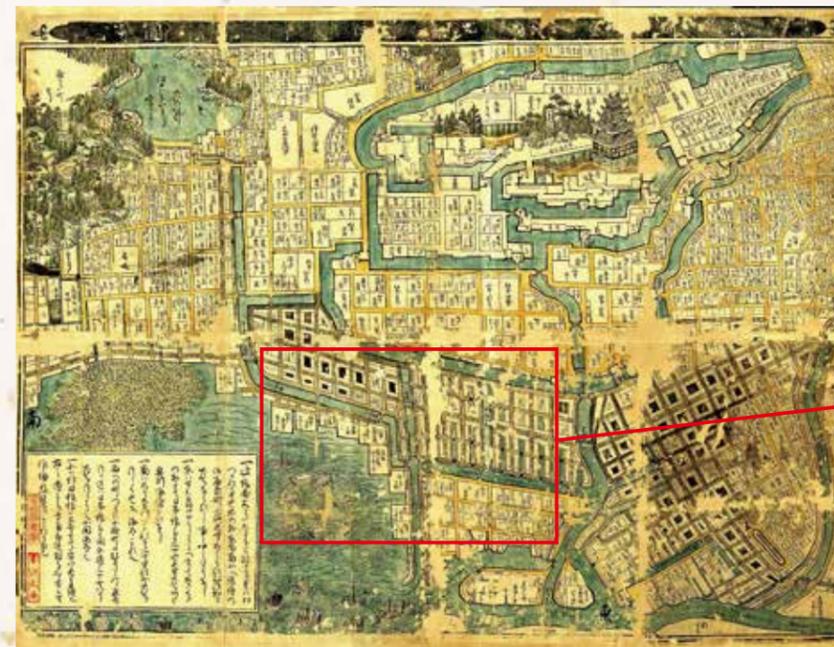
町人地の東端、すなわち隅田川の西岸は、17世紀後半までの埋め立てによって武家地となるが、町人地が点在する。霊岸島(のちの新川)の西の「八丁堀」の地は、家康が将軍になると、西側の半島状の「前島」が整地されて京橋などの町人地となったため、前島にあった寺院の移転地となり、寺院が薨を並べる「寺町」となった。このときに、船入りの八丁堀(桜川)ができ、堀の南北に南八丁堀と本八丁堀の町人地が誕生した。

家光の時代に外濠が「の」の字型となって惣構えが完成すると、八丁堀の地は武家地に転じ、景観が変わる。本八丁堀の北から茅場町の南までの中央部を占めていた寺町の跡が、丸の内の外濠の御門内に設けられた町奉行所の与力・同心の組屋敷となった。組屋敷は下級幕臣(御家人)に与えられた集合住宅地であり、八丁堀の組屋敷は明治まで存続する。

時代劇で、与力・同心を「八丁堀」とか「八丁堀の旦那」と呼んでいるのは、これに由来するが、明治以降、八丁堀は人口に膾炙するほど、有名になった。

八丁堀の地から、勤務先の町奉行所までは四半時(30分)ほどであろうか。徒歩の時代だから、武士・町人を問わず職住近接が原則であり、与力・同心の宅地として八丁堀が選地されたのであろう。

18世紀になると、幕臣の困窮が顕著となる。御三家の紀州藩主から8



「武州豊嶋郡江戸〔庄〕図」〔寛永9(1632)年頃〕刊、国立国会図書館デジタルコレクション



八丁堀付近



加藤家の載る「細見図」

「加藤又左衛門」屋敷

代将軍になった吉宗は、幕府財政の再建=幕臣の救済に取り組む(享保の改革)。享保2(1717)年正月、吉宗により、南の町奉行に登用された大岡忠相(越前守)は、配下に吟味方与力加藤枝直(又左衛門)らを得て、火事対策や法制度など、江戸の民政に辣腕を發揮する。

伊勢松坂の浪人(父は元紀州藩士)だった加藤枝直は、26歳の享保3(1718)年江戸に出て幕臣となり、享保5(1720)年に南の与力となった。これには、大岡忠相の伊勢山田奉行時代に縁故のあった可能性が想定される。

下級幕臣の与力の生活も困窮しており、宅地(300坪)の内、道路に面した地を貸して生活の糧を得た。加藤枝直の地を借りた人物に、19世紀江戸の人気スイーツの「おさつ」となる焼き芋(さつま芋)の恩人といえる「甘藷先生」青木昆陽(文蔵)がいる。

昆陽は、日本橋の魚河岸の魚問屋・佃屋半右衛門の一子に生まれたが、跡取りを嫌い、20歳の享保2(1717)年、京都に遊学して儒学者伊藤東涯の古義塾に学んだ。しかし、2年後に生家類焼の報を受けたため、江戸にもどってきた。魚問屋再興をあきらめていた父母と同居のために借宅を探し、八丁堀の地で加藤枝直に出会った。借り手には、学者とか、絵師とか、医者など、身元の確かな人物を求めていたので、話はまとまり、昆陽は「手習い師匠」として子どもたちに「読み書き」を教えたという。枝直が与力になったのは、享保5(1720)年だから、昆陽が八丁堀の地の住んだのは、この年以降のこととなる。

昆陽は、京都遊学中、儒学のかたわら、本草学(博物学)に興味を持ち、甘藷(さつま芋)に関心をいただいたが、学問としては西国で起こった飢饉(享保17(1732)年)を契機に、本格的な研究を始めている。借宅の庭で栽培を試みた可能性は否定できない。

救荒食としての甘藷の話は昆陽から聞いた枝直が上司の大岡忠相に話を通したことにより、享保18(1733)年の忠相の推挙となり、将軍吉宗の命を受けた昆陽は、享保20(1735)年に『蕃藷考』を著し、翌元文元(1736)年に薩摩芋御用掛を命じられ、幕臣「青木文蔵敦書」となった。ときに39歳。

青木文蔵こと、昆陽の借宅は、八丁堀のどの辺にあったのだろうか。枝直の子孫は代々与力となっている。ただし、気になる点がある。枝直は南の与力だったが、享保18(1733)年に北の与力に転じている。職住近接の点から、八丁堀の南にあった宅地が北に移った可能性があるが、宅地が中央部にあったとするならば、変わらないこともありうる。

19世紀の幕末(文久2(1862)年)に下るが、尾張屋版「切絵図」の「八丁堀細見図」を見ると、茅場町寄りに与力「加藤又左衛門」の名が見える。又左衛門は枝直以来の当主の名乗りだから子孫に間違いはない。場所が中央部より北の町奉行所に近い茅場町寄りにあるのは、枝直が遅れて大岡忠相の与力となったことにかかわるのかもしれない。ここに昆陽の借宅があったと仮定したい。現在の中央区日本橋茅場町二丁目である。



「いいイベントです！」
「けんちん汁、とても味が濃くておいしかったです。」

●日本の料理
Japanese Foods



●けん玉実演
Kendama Performance

●着付け
Kimono Etiquette



11/18(SAT)
12:00~
16:00

●スリランカミルクティー
Sri Lankan Milk Tea



●スリランカパネル展
Panel Exhibition of Sri Lanka



●折り紙
Origami



●日本の遊び・海外の遊び
Japanese Games・Foreign Games



●呈茶・茶道体験
Tea Ceremony Experience



●抹茶の点て方体験
Matcha Making Experience



●生け花体験
Flower Arrangement Experience



●和太鼓ワークショップ
Taiko (Japanese Drum) Workshop

第29回中央区国際交流のつどい

29th Chuo City Internatinal Exchange Party

11月18日(土)、築地社会教育会館で
第29回「中央区国際交流のつどい」が開催されました。
外国人101人を含む計425人が集まり
日本をはじめ世界各地の伝統文化や遊びを楽しみました。



●長唄三味線を弾いてみよう！
Let's try Shamisen!



●凧づくりと凧の展示
Kite Making and Displays

「来日して約1年。みんな学校は違います」
「中国と日本は似ている文化も多くて面白い」
「三味線を弾きました！」



●水引細工
Mizubiki Workshop



●防災コーナー
Disaster Preparedness



●サルサ
Salsa Dance



●盆踊り
Japanese Bon Dance



「中央区国際交流のつどい」は外国人と日本人との交流を推進するため、日本や諸外国の文化を紹介し合い交流するイベントです。中央区文化・国際交流振興協会が、ボランティアの方々と協働して毎年秋に開催。今年で29回目を迎えました。今年の参加者はのべ425人と大盛況で、会場となった築地社会教育会館には開場時間前からイベントを楽しみに待つ人たちの列ができました。このイベントの魅力は、体験を通じて多様な文化に触れられることです。今回も、衣、食、住、踊りや音楽、遊びなど、バラエティ豊かな18のプログラムが揃いました。「衣」では、「和服の着付け」と、スリランカの伝統衣装「サリーの着付け」が登場。外国人限定の和服の着付けは毎年大人気。今年

も様々な国からの参加者たちが着物に袖を通し、目を輝かせていました。サリーは、着たまま館内を自由に行き来できるのが魅力。異国ムードをまといながらイベントを満喫できました。「食」では、「けんちん汁」や「スリランカミルクティー」が振る舞われました。けんちん汁は、鶏肉、しいたけ、ゴボウなど12種類入りで具だくさん。スリランカミルクティーでは人気のレモンクッキーなどのおやつも並び、贅沢なティータイムを楽しめました。「茶道」体験では、薄茶と抹茶の2つのプログラムが登場。薄茶の「呈茶・茶道体験」では、和菓子をいただきながら掛け軸や香合といった「お床」のおもてなしについても知ることができました。「抹茶の点て方体験」

では茶筌を片手に自分でお茶を点てて、美味しくいただきました。「住」空間を彩る「生け花」は、先着60名の限定体験。今年は、カーネーション、りんどう、菊、あおきが用意され、卓ごとに先生が付き、丁寧に教えてくれました。一方、住まいの安全を守るための情報などを紹介していたのは「防災コーナー」。各国語のガイドブックなども用意されていました。踊りや音楽も盛りだくさんで、「盆踊り」「サルサダンス」「長唄三味線」「和太鼓」では、国も年齢も性別もさまざまな参加者たちが一堂に会し、陽気なリズムや素敵なメロディに合わせて全身で楽しみました。また、「けん玉」「凧づくり」「折り紙」「水引細工」などのプロ

グラム、常設の「日本の遊び・海外の遊び」コーナーでは、さまざまな遊びを通じて、多彩な文化を体感。言葉が通じなくても遊びながら交流を深め合う、和気あいあいとしたムードに、明るい未来を感じました。「スリランカパネル展示」では、パネル展を担当している方から、今年現地を訪問した際のホットな話を聞くことができました。感想ボードには「素晴らしい交流会をありがとう」「来年もまた来ます」「How happy I am!」「Very nice event」「Thank you. It was very fun!」「Enjoy!中央区!」などの声が集まりました。皆さま、来年もまた一緒に楽しみましょう。

令和4年度の事業報告と決算

令和4年度事業報告

令和5年7月12日(水)開催の令和5年度第1回理事会において、令和4年度の事業報告及び収支決算報告が承認されました。その概要を報告します。

I 文化振興事業

(1) 機関誌の発行

「中央区文化・国際交流振興協会だより」を発行しました。

発行部数等 5,500部 A4判 8ページ

発行回数 年2回(令和4年7月—第77号、同年12月—第78号)

(2) ホームページの運営

スマートフォンにも対応できる協会ホームページをとおして、協会の概要や事業内容、イベント案内等の最新情報を提供し、協会に対する理解と参加の促進を図りました。

URL: <https://www.chuo-ci.jp/>
また、SNSによる情報発信も行いました。

(3) コンサートの開催

区民等に音楽の楽しさを味わってもらえる機会としてコンサートを開催し、地域の文化活動の推進を図りました。

日時 令和5年1月13日(金)
午後6時45分開演

会場 日本橋公会堂ホール「日本橋劇場」

内容 青島広志 コンサート&トーク

出演者 青島 広志、小野 勉、横山 美奈

入場者数 151名

参加費 2,000円



(4) 文化講座の開催

中央区にゆかりのある「香り」の専門店の協力のもと、「香りの文化」をテーマに、由緒ある老舗・名店ならではの歴史や伝統をはじめ、新しい香りや香りのこれから等、香りの奥深さに触れる連続講座「プロに聞く 今に伝わり 未来に伝える「香りの世界」」を開催しました。

第一回
日時 令和4年10月6日(木)
午後6時45分開演
内容 「新・“香りある心豊かな暮らし”～日常の美を見つめる瞬間をつくる～」
暮らしの香り 代表 小仲 正也

第二回
日時 令和4年10月13日(木)
午後6時45分開演
内容 「銀座から生まれた香り文化100年の軌跡～流行から役割、効果まで～」
株式会社 資生堂 グローバル香料開発グループ シニアパフューマー 森下 薫

第三回
日時 令和4年10月20日(木)
午後6時45分開演
内容 「香りと日本人のものがたり」
及び講師 香老舗 松栄堂 主人 畑 正高
会場 日本橋公会堂 第3・4洋室
参加者数 延202名

参加費 無料



(5) 特別文化講演会の開催

展覧会に関連した講演会をNHKとの共催により3年ぶりに開催し、区民等の文化意識の向上を図りました。

日時 令和4年11月10日(木)
午後6時50分開演

会場 日本橋公会堂ホール「日本橋劇場」

内容 東京国立博物館創立150年記念特別展「国宝 東京国立博物館のすべて」

及び講師 東京国立博物館 学芸研究部列品管理課登録室・貸与特別観覧室 室長 佐藤 寛介

参加者 358名

参加費 無料



(6) 古典芸能鑑賞会の開催

中央区に深い関わりを持つ古典芸能を鑑賞する機会を提供することで、伝統文化に対する愛着心を育み、その継承・普及を図りました。企画・制作は、「中央区古典芸能の会」に委託しました。

日時 令和4年6月4日(土)
午後5時開演

会場 日本橋公会堂ホール「日本橋劇場」

内容 講話 「平将門夜話と近代築地妖ばなし」 伊東 成郎
演奏 「長唄 風流船揃」

唄 柁屋 利光
三味線 今藤 美治郎
落語 「鮑のし」 古今亭 志ん橋
舞踊 「常磐津 忍夜恋曲者一将門」
滝夜叉姫 藤間 京之助
大宅太郎光圀 花柳 登貴太郎
演奏 浄瑠璃 常磐津 初勢太夫
三味線 常磐津 一寿郎

入場者数 281名(花道使用)

参加費 2,000円(中学生以下1,000円)

(7) 文化推進事業助成

区民等による区内文化活動をさらに促進していくために、文化活動に要する経費の一部を助成するとともに、後援を行いました。

(助成)

①文化創造・発信事業助成

助成金額: 当該事業の対象経費の9/10の範囲内(上限200万円)

助成件数: ア 令和4年度助成件数(令和3年度決定): 4件
イ 令和5年度助成予定件数(令和4年度決定): 4件

②文化団体活動助成

助成金額: 当該団体活動の対象経費の1/2の範囲内(上限40万円)

助成件数: ア 令和4年度助成件数(令和3年度決定): 3件

イ 令和5年度助成予定件数(令和4年度決定): 3件

③文化推進事業助成

助成金額: 当該事業の対象経費の1/2の範囲内(上限10万円)

助成件数: 2件

(後援)

後援件数: 9件

(8) 中央区まるごとミュージアムの開催

文化・芸術の秋の一日、本区のさまざまな文化的魅力を体験できる第15回「中央区まるごとミュージアム2022」を中央区との共催で開催しました。

日時 令和4年11月13日(日)
午前10時～午後4時

場所 中央区全域

実施結果

・バス乗車人数(区内巡回、都営バス借上げ、江戸バス無料) 合計3,556名

・乗船人数(日本橋周遊、明石町水辺ライン周遊及び日本橋～晴海ルートの3コース) 合計2,280名

・イベント事業数 39事業及び4協賛事業

・イベント参加人数 延49,000名

(9) 文化振興プロデュースチーム

「中央区文化振興プラン」(平成20年3月中央区文化振興懇談会提言)に基づき、中央区と協会が協力して区民(企業、NPO等を含む)の自主的な文化活動の推進・拡大を図るため、平成20年度に専門家等からなるプロデュースチーム(構成員6名)を設置しました。

令和4年度は、区や協会が行う文化事業や中央区まるごとミュージアム2022の事業者連絡会にて意見をいただくなど、区内全体の文化事業の推進について協議していただきました。

II 国際交流振興事業

(1) 国際交流のつどいの開催

外国人と日本人との交流を推進するため、日本の伝統文化等を紹介するとともに、外国文化にも触れられる交流イベントを3年ぶりに開催しました。

日時 令和4年11月19日(土)
正午～午後4時

会場 築地社会教育会館

内容 ○伝統文化体験コーナー
○国際交流サロンコーナー
○防災コーナー等

参加者数 延410名(ボランティア等含む)

参加費 無料

(2) 国際交流サロン

区内在住・在勤・在学の外国人と日本人が、日本の文化等を体験できるイベントを通じて楽しく交流できる場として、ボランティアの協力を得て11月を除く毎月1回、土曜日に開催しました。

会場 女性センター「ブーケ21」他(令和5年4月1日に男女平等センターに名称変更)

内容 漆器のあれこれ、海苔の魅力をもみんなで学ぼう!、和菓子に親しもう!、茶道を体験してみよう!、盆踊りを覚えて踊ろう!、ポッチャを体験してみよう!、浜離宮恩賜庭園を散策しよう!、お香についてみんなで学ぼう!、附け打ちを学ぼう!、防災訓練

※新型コロナウイルスの影響により10月は中止となりました。

実施回数 10回

参加者数 外国人 延69名、日本人 延129名
(事前申込制)、ボランティアスタッフ 延90名

参加費 無料



(3) 日本語教室

日本語でのコミュニケーションが困難な区内在住・在勤の外国人を対象に、日本語ボランティアによる日本語の指導及び学習者と指導者の交流を深める場として、通年で教室を運営しました。

また、協会主催教室以外のボランティア主催教室については、助成金の交付や後援名義の使用、学習者紹介等の支援を行いました。

※一部教室は新型コロナウイルスのため、時間を変更して開催しました。



(4) 日本語指導者養成講座

日本語教室受講希望者の増加に対応するとともに、協会やボランティア主催教室の活動を充実させるため、指導を担う日本語ボランティアを養成する協会独自の日本語指導者養成講座を開催しています。

期間 令和4年5月～10月 22回(44時間)

修了者数 18名

講師 明海大学外国語学部日本語学科 准教授 西川 寛之

会場 新富区民館

参加費 無料

(5) 日本語ステップアップ講座の開催

各教室で活動する日本語指導者の学習需要に対応するとともに、指導力・技法のレベルアップを図るため、ステップアップ講座を開催しました。

期間 令和4年6月～令和5年2月7回(14時間)

受講者数 延90名

講師 公益社団法人 国際日本語普及協会へ講師派遣を委託

会場 新富区民館

参加費 無料

(6) ボランティア活動支援

日本語指導者をはじめとする各種の協会登録ボランティアの活動を支援するとともに、中央区から要請を受け、区事業実施時に通訳ボランティアを派遣しました。

また、ボランティアの活動の推進並びにボランティア間あるいはボランティアと協会との連携を強化するため、ボランティア研修会を開催しました。

①ボランティアの種類及び登録者数(令和5年3月末日現在)

登録者数: 312名(実人員。次の区分では複数登録あり)

・通訳・翻訳ボランティア: 92名

・イベントスタッフボランティア: 166名

・日本語ボランティア: 195名

・国際交流サロンボランティア: 12名

・防災語学ボランティア: 55名

②ボランティアの派遣・活動

通訳・翻訳ボランティア及び防災語学ボランティア 延12名(保健センターにおける子育て相談など)

③ボランティア研修会

第一回

日時 令和4年11月25日(金)
午後6時45分～8時15分

内容 ウクライナを身近に感じてみよう!

及び講師 アナスタシア ポリシュチュク

会場 新富区民館

参加者数 19名

参加費 無料

第二回

日時 令和5年3月23日(木)
午後6時45分～8時15分

内容 世界は広く、多様で、面白いー

及び講師 異文化接触の楽しみー世界28か国を駆け巡った元外交官・ビジネスマンからのメッセージー

寄保 博幸

会場 新富区民館

参加者数 19名

参加費 無料

(7) 姉妹都市親善写真展

姉妹都市ザザランド市と本区との一層の親善を深めるため、お互いの生活や風景、行事等を紹介する写真を交換し、写真展を開催しています。新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、令和2・3年度は中止となっていました。令和4年度に再開することができました。

実施期間 令和5年1月29日(日)～2月3日(金)

会場 区役所本庁舎1階ロビー

実施期間 令和5年2月4日(土)～10日(金)

会場 日本橋区民センター1階ロビー

実施期間 令和5年2月12日(日)～17日(金)

会場 月島区民センター1階ロビー

(8) 国際交流推進事業助成

区民が主体となって行う国際交流事業に対して、事業の実施に要する経費の一部を助成及び後援を行っています。

助成金額: 当該事業の対象経費の1/2の範囲内(上限10万円)

助成及び後援件数: 0件

令和4年度決算

<収入>

科目	決算額(円)	説明
事業収入	888,500	古典芸能鑑賞会、コンサート事業収入等
区補助金	114,980,000	中央区からの補助金
寄付金	0	
雑入	361	預金利息
収入合計	115,868,861	

<支出>

科目	決算額(円)	説明
事業費	65,732,935	
文化振興費	61,138,364	機関誌の発行、コンサート、文化講座、特別文化講演会、古典芸能鑑賞会、文化推進事業助成、中央区まるごとミュージアム、文化振興プロデュースチーム
国際交流振興費	4,594,571	国際交流のつどい、国際交流サロン、日本語教室、日本語指導者養成講座、日本語ステップアップ講座、ボランティア活動支援、姉妹都市親善写真展
管理費	38,968,946	
人件費	35,979,142	職員の給与
管理運営費	2,989,804	理事会、事務費等
予備費	0	
合計	104,701,881	
区返還金	11,166,980	中央区補助金の精算返納
支出合計	115,868,861	

協会主催の日本語教室

①水曜日教室

※新型コロナウイルスのため、時間を変更して開催しました。

日時 毎月第1・第2・第3水曜日(8月を除く) 午後6時30分～8時

会場 女性センター「ブーケ21」(令和5年4月1日に男女平等センターに名称変更)

実施回数 31回

参加者数 外国人 延274名、ボランティア 延277名

②木曜日教室

※新型コロナウイルスのため、時間を変更して開催しました。

日時 毎月第1・第2・第3木曜日(8月を除く) 午前10時～11時45分

会場 新富区民館

実施回数 30回

参加者数 外国人 延341名、ボランティア 延360名

③土曜日教室

※新型コロナウイルスのため、時間を変更して開催しました。

日時 毎月第2・第3・第4土曜日(8月は第2・第3土曜日を除く)

会場 新富区民館

実施回数 31回

参加者数 外国人 延255名、ボランティア 延290名

協会が支援する日本語教室

①ワールドフレンズ日曜にほんごクラブ

日時 毎週日曜日 午前10時～11時30分

会場 日本橋社会教育会館

実施回数 38回

参加者数 外国人 延299名、ボランティア 延168名

②日本語おたすけたい

日時 月曜日(月3回) 午後7時～8時30分

会場 日本橋社会教育会館

実施回数 35回

参加者数 外国人 延161名、ボランティア 延240名

③月島日本語倶楽部

※新型コロナウイルスのため、時間を変更して開催しました。

日時 毎週火曜日(8月を除く) 午前10時～11時50分

会場 月島社会教育会館

実施回数 36回

参加者数 外国人 延99名、ボランティア 延114名

④日本語コミュニケーション・パートナー

日時 火曜日(月3回) 午後7時～8時30分

会場 新富区民館

実施回数 35回

参加者数 外国人 延162名、ボランティア 延171名

⑤銀座日本語教室

日時 毎月第1・第2・第3水曜日(8月を除く)

会場 築地社会教育会館

実施回数 33回

参加者数 外国人 延219名、ボランティア 延225名

⑥こここ日本語

日時 木曜日(月3回)(8月を除く) 午後7時～8時30分

会場 佃区民館

実施回数 33回

参加者数 外国人 延489名、ボランティア 延330名

⑦にほんご生活

※新型コロナウイルスのため、オンラインで実施

日時 毎週土曜日 午後2時～3時45分

会場 ZOOMによるオンライン開催

実施回数 48回

参加者数 外国人 延514名、ボランティア 延252名

第16回中央区まるごとミュージアム 2023

11月5日(日)、秋の恒例イベント「中央区まるごとミュージアム2023」を開催しました。今回は、新規5事業を含む43のイベントが開催され、多くの皆さまに中央区の歴史と文化を満喫していただきました。

主催：中央区・中央区文化・国際交流振興協会

11/5(Sun)
10:00～
16:00

大伝馬本町通りの説明

中央区全体をひとつの“ミュージアム”に見立てた多彩な切り口で文化や歴史を体感できる「中央区まるごとミュージアム」。今年も秋晴れの中、開催されました。江戸時代から日本の文化、商業、情報の中心として発展しつづけてきた中央区。歴史ある建物も大切に残っている街並みと伝統芸能など、子供から大人まで体験できて中央区の魅力を改めて知ることができるイベントです。今年で16回目を迎えたまるごとミュージアム、新規5事業を含んで昨年より4つ多い43の文化イベントが開催され、区内外からのべ61,000人の方にご参加いただきました。

開始早々列を作って並んでいたのは“気軽にツクル！プチクラフト体験”〈写真①〉。日本橋駅から徒歩2分の「TUKURU」というこちらの教室は、その名の通り大人も子供も自分で作って体験できる空間です。この日は、ミニキャンドル、ハーバリウムボールペン、ハーバリウムボトルなどが、30分程で体験できるものが用意されていました。ハーバリウムボトルはたくさんのカラフルな造花やビーズの中から好きなものをセレクトし、ピンセットで好みの瓶に入れ最後にオイルをいれて完成です。オイルを入れると、造花が更に色鮮やかに透明感がでて、固まらないので中の造花は微妙な動きで本当の花のようにイキイキして見えて可愛い出来上がりになりました。

“みんなあつまれ！京橋こども祭りVol.2！～アジアのあそび～”〈写真②〉は、韓国で昔から親しまれている「投壺」の体験。壺の穴をめがけて、紙でできたつつを投げて入れるゲームです。もう一つ、瓶に紐をひっかけて瓶を立たせる瓶釣りのゲームは、バランスをうまくとり全体を使い紐を動かさないといけませんので、大人も子供も気軽に楽しんで体験できるイベントです。

ポリスミュージアム（警察博物館）〈写真③〉では、入った途端、白バイなどが飾られていて、実際に白バイに座ってみることができ写真を撮ることが出来ます。子供達は大喜び。階段を

上ると、昔の警察官の制服なども展示されています。犯人の似顔絵を仕上げっていくゲームもあり、家族連れで賑わっていました。

“昭和モダン奥野ビルでタイムスリップ”〈写真④〉では外観はもちろんのこと、一步中に入ると昭和初期にタイムスリップしたような気分になります。手動式のエレベーターに乗ると、動く音もレトロな感じがします。306号室はもともとは美容室だったという当時のまま残されている唯一の部屋で、こちらで美容院を営んでいた女性は、美容室をたたんでも100歳まで住み続け、友達を呼んで楽しんでいたので、壁につけられていた鏡や電球、家具などからもアンティークな温もりが感じられて、昔の映画のワンシーンを観ているような気分になりました。

最近ではコロナ前のような活気を取りもどし外国人観光客も多くなり、この日も大賑わいの築地で行われていた、“築地ボディペイント！～体感する築地場外市場～”〈写真⑤〉では築地場外市場ならではの魚介類などをモチーフにした絵柄をボディペイントしてもらっていました。

新型コロナウイルス感染対策の為に一時休止していた、去年から復活したバスツアー〈写真⑥⑦〉。日本橋エリアで地元に住んでいるという中央区文化財サポーター協会のガイドさんから、歩きながら、江戸時代には木綿問屋が軒を連ねていた大伝馬本町通りや、日本橋七福神で巡る7つの神社のひとつ相森神社の説明を聞き、伝馬町牢屋敷跡では、十思公園で城下の人々に時を知らせる為に設置された石町時の鐘の前でしばし当時の人々の生活に思いを馳せ、そして最後は講談体験。講談はこの地域で江戸元禄の頃発祥の大衆演芸です。声優もされているという一龍斎貞友先生のテンポのよい話しに皆さん釘づけでした〈写真⑧〉。

今年もご参加いただきました皆さま、イベントにご協力いただいた全ての皆さま、有難うございました。この素晴らしいイベントがもっと多くの皆さまに伝わり来年も楽しんで頂けることを願います。



①気軽にツクル！プチクラフト体験



②京橋こども祭り～アジアのあそび～



③ポリスミュージアム（警察博物館）



④昭和モダン 奥野ビルのエレベーター



⑤築地ボディペイント



⑥まち歩きツアー 相森神社



⑦まち歩きツアー 十思公園 石町時の鐘



⑧一龍斎貞友先生による講演

表紙

空、海、森、美しい街並み、魅力あふれるビーチに集う

(オーストラリア サザランド市姉妹都市親善写真展<令和5年1月～2月>より)

新型コロナで3年連続中止となっていた姉妹都市親善写真展を区内3か所で再開することができました。日本とは季節が反対の南半球オーストラリアは12月から夏がはじまります。

特集は、江戸文化研究者、早稲田大学エクステンションセンター講師である菅野俊輔氏に、10月に開催した文化講座の中で「町人自治と大江戸警視庁<与力・同心>が守る庶民の暮らし～十手・捕縄が及ばぬ世界もあった～」と題して講演していただきましたところ大変好評でしたので、講演に関連した内容について寄稿していただきました。

29回目を迎えた「国際交流のつどい」では、料理(けんちん汁、スリランカミルクティー)や踊り(サルサ、盆踊り)、呈茶・茶道等日本の伝統文化の体験など様々なコーナーに425の方が参加され楽しく交流を深めていただきました。

16回目となった「まるごとミュージアム2023」では、新規5事業を加えた43の多彩な文化イベントが繰り広げられ、延べ6,1000人の方に中央区の文化的な魅力を満喫していただきました。